



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 237号 2011.1.18 発行 社会政策研究所

税と社会保障の与野党協議、「政府案が先」—与謝野担当相

キャリアブレイン 2011年1月18日

与謝野馨経済財政担当相は1月18日の閣議後の記者会見で、税制と社会保障制度の抜本改革をめぐる与野党協議について、「スタートとしては、やはり第一次案というものがなければならない」と述べ、菅直人首相が目標としている6月までに政府案をまとめた上で、野党側との協議に臨みたいとの考えを示した。

会見で与謝野担当相は、「6月までに検討を重ねて菅内閣としての案を作り、これを各党に提示してご検討いただく」と述べるとともに、「案がないのに協議はできないというのは、もっともなご主張だと思っている」と、野党側に配慮する姿勢を見せた。

与謝野担当相はまた、社会保障と税の共通番号制度について、「事務の効率化のほかに、社会保障を受ける側から漏れがないことを保証する。いろいろな観点から、大変有効だと思っている」と述べた。



特別閣議決定後に、野党側との協議に臨みたい考えを示した与謝野担当相（1月18日、内閣府内）

税と社会保障改革「国民の痛みは不可避」—財政審

キャリアブレイン 2011年1月17日

財務相の諮問機関である財政制度等審議会（財政審、会長＝吉川洋・東大大学院経済学研究科長）は1月17日、財政制度分科会を開き、税と社会保障の一体改革について議論した。財政危機を背景に「国民の痛みは避けられない」とし、具体的な社会保障サービスと国民の負担を明示すべきだとする意見などが上がったという。

終了後、吉川会長と吉田泉財務政務官が記者会見を行った。吉川会長によると、この日の分科会では、昨年12月に閣議決定した社会保障改革の基本方針などについて、事務局の説明を受けた後、意見交換した。「予算編成が限界に来ているのは明らか。若い世代の負担を軽くすれば、高齢者に痛みを伴うこともあるということを明確にすべきだ」「痛みは、もはや避けられない」など、複数の委員が社会保障財源の厳しさに言及。さらに、与野党を超えて国民に分かりやすい議論を進める必要性も強調され、社会保障のナショナル・ミニマムや、今後の社会保障と負担の具体的な姿を示すべきだとの指摘があったという。

社会保障と税の共通番号制度に関しては、「財源確保に限界がある中、社会保障の効率化は必要だ」「制度が成立すれば、すべての問題が解決するかのような思い込みがあるのではないかと、それぞれの見解が示されたという。このほか、国際的にも質の高い社会保障サービスが提供されていること、負担が次世代に先送りされていることを国民に認識してもらうべきだとの意見もあったという。

今年6月までに社会保障改革案を取りまとめるとの政府方針について、吉田政務官は、政府・与党の検討本部が中心となるとした上で「財務省として、財政審の専門的な意見を本部の検討に反映させていく」と述べた。分科会に先立ち開かれた総会では、任期満了に伴う会長互選を行い、吉川会長を再任した。任期は2年。以上